

都立高校における外国人生徒等に対する日本語指導を組み入れた

日本語教育実習

明海大学外国語学部 木山三佳

実施機関	明海大学
授業名・研修名	日本語教育実習
対象（人数等）	日本語教員を目指す学生、国語科教職課程を履修している学生など 22 名
授業・研修の 目標	留学生および外国人児童生徒等も対象とした日本語授業の計画をたて、目的に合った活動をデザインし実践を行うことができるようになる。
参考にしたモデルプログラムの番号	①③⑫⑭⑰

<実施状況と成果>

本授業は通年選択必修科目である。国語教員を志望する学生と日本語教師を志望する学生が履修する。1年次に教授法や教案作成など基礎的な知識を学び、2年次に初級文法指導を学びその模擬実習を行い、3年次で履修する学生が多い。

在京外国人生徒特別入試を行っている都立4校と教育連携協定を結び、そのうち3校において外国人生徒に対する日本語指導支援を継続的に実施している。一回の指導に2人～5人参加、一回あたり60分～120分で、年度内88回行っている。

① 授業・研修等の実施計画

活動展開	方法 形態	時間 (分)	モデルプログラム
<p>●外国人児童生徒等に関する基本知識を得る</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国人児童生徒等の人数の推移、日本語指導が必要な児童生徒に対する施策などの現状を理解する。 バイリンガルの認知・言語の発達を理解する。 教科学習に必要な学習言語を理解する。 	講義	90×1	①外国人児童生徒教育の考え方 ③受け入れの現状と施策 ⑫外国人児童生徒等の心理と適応
<p>●日本語指導の知識を得る</p> <ul style="list-style-type: none"> 先行研究から、文章理解、文章産出、聴解、語彙の認知プロセスを理解する。会話における話し手、聞き手の役割を理解する。 読解、聴解、作文、会話、語彙、統合型の基本的な 	講義	90×6	⑰日本語指導の理論と方法

指導方法を学び、それぞれの指導における学習言語の育成をはかる工夫を学ぶ			
<p>●模擬実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一つのテーマで3グループ（初・中・上級）が同時並行で20分の模擬実習を行う。学習者役の学生はグループフォームで評価を送信する。10分のフィードバックの後、学習者役の学生を入れ替え、3回同じ教案で模擬実習を行う。 	実習	90×8	⑰日本語指導の理論と方法
<p>●実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人等高校生に対する日本語指導に参加する。 ・日本語学校、別科での教育実習に参加する。 ・実習のための教案、教材の準備をし、実習参加後は報告書を提出する。 	実習	60～ 120分	⑭現場での実践

② 実施時の受講者の参加の様子

高校での日本語指導は、クラスごとに文法、読解、漢字、統合型など指導内容が異なる。学生は多様な授業展開を考えることに最初は難しさを感じていた。しかし、講義で学んだ知識を使って、学習言語の育成を意識して、高校の教科教育との接点がある例文を使用したり、新聞等の書き言葉で書かれた読み物を用意したり工夫をしていた。後期になると、自分が行った指導における外国人等高校生の反応を受けて、どうしたら分かりやすくできるか、興味を持ってもらえるか、など実習生どうして話し合い、指導に反映し、それをふりかえることができるようになった。

③ 成果（目標の達成の度合い等）

高校での日本語指導への参加回数は個人差があり、中には年間20回以上の参加する学生もいる。日本語教員志望者で積極的に高校での日本語指導支援に参加している学生は、模擬実習における他の学生からの評価をみると、「説明」と「学習者把握」の面で評価が高い。さらに自分のふりかえりにおいても、学習者がどう受け止めるかという視点を意識したコメントが多い。

④ 課題

指導対象、指導内容などが多岐にわたるため、理解の定着を図ることが難しい。高校における日本語指導は、多くの場合、平常授業時の高校の放課後の時間帯に行われる。大学の履修科目の授業が午後にある場合や、国語科の教育実習等が行われる期間などは、日本語指導支援に行くことが難しい。補習もしくは新科目の設置、2月や9月などの大学で授業がない期間の利用など工夫していきたい。